

2018年6月18日

福島県内出身者の8割が「地元就職」を希望 地域経済活性化のカギは地元民にあり 福島県と第一生命による県内で働く人々の就業意識調査

第一生命保険株式会社(社長:稲垣 精二)では、2017年3月に締結した福島県との包括連携協定の一環として、若者の県内定着に向けた課題を明らかにすることを目的に、福島県内で働いている男女 2,012 名に対して、就労の実態や意識についてたずねたアンケート調査を実施しました。その調査結果がまとまりましたので、ご報告します。

《調査結果のポイント》

就職パターンと地域への愛着意識 (P. 3)

- 就職パターンは、「出身地就職」が最も多く62.3%。地域への愛着を「感じている」人の割合が最も高いのは「Uターン就職」の人々。

働く上で重視していること (P. 5)

- 最も多い回答は「やりがいを感じられる仕事ができること」

福島県内で働いている理由 (P. 6)

- 最も多い回答は「家族・親族が住んでいるから」

学校を卒業したときに希望していた勤務地 (P. 7)

- 全体では7割以上が「福島県内」を希望

今後の県内就業の意向 (P. 8)

- 全体の9割近くが「このまま福島県内で働きたい」

就職先を決める際に利用した情報 (P. 9)

- 20代は「企業のホームページやSNS」、30代は「ハローワーク」、40代以上は「家族・親族の話」がそれぞれ最も多い

就職を決める際に利用した情報の中で信頼できる情報 (P. 11)

- 20代は「企業のホームページやSNS」、30代、40代以上は「ハローワーク」がそれぞれ最も多い

就職を決める際に利用した情報の中で仕事内容がわかる情報 (P. 12)

- 20代、30代は「企業のホームページやSNS」、40代以上は「OB・OGの話」がそれぞれ最も多い

就職の際に利用した情報の中で職場の雰囲気がわかる情報 (P. 13)

- 全年代にわたり「OB・OGの話」が最も多い

利用した情報についての評価 (P. 14)

- 就職の際に「OB・OGなど、志望企業で働いている人に話を聞いた」人の中で、「信頼できる」と回答した人は半数以上(55.9%)、「仕事の内容がよくわかった」と回答した人は6割以上(60.1%)、「職場の雰囲気がよくわかった」と回答した人の割合は8割近く(78.1%)にのぼる

＜本調査の内容に関するご照会・取材のお申し込みは、下記までお願いいたします＞

(株) 第一生命経済研究所 調査研究本部 ライフデザイン研究部 広報担当(津田・関)

TEL 03-5221-4772 FAX 03-5219-8400

【URL】 <http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/>

《研究員の考察》

若者の県内定着に向けた課題

①出身者の県内定着とともに、学卒から県内就職の人々を増やす

本調査において、県内で働いている人々を4つの就職パターンに分類したところ、福島県内で生まれ育った人がそのまま県内で働く「出身地就職」の人々が多くを占めていました。また、進学のために福島県を離れた後、再び県内に戻って働いている「Uターン就職」の人まで含めると、県内で働いている人のうち地元出身者がおよそ9割を占めているという結果です。これらの人々の多くは「地元が好き」であり、地域への愛着意識が高いです。また、Uターン就職の人々は特に、地元への貢献意識が高いという特徴もみられました。こうした人々の活力は地域経済の発展のための大きな原動力になります。したがって、まずは、地元出身者の人々がそのまま県内で働き続けることができる環境を整備することが肝要です。そのためには、多くの人が自分の能力に合った、やりがいのある仕事に就けることに加え、雇用の安定性や適正な賃金をもらえることなどを求めているように、人々の生活を支える雇用の場を用意することが前提です。

他方、出身が県外でも福島県内の学校を卒業し、そのまま県内で働いている人も少数ながらいいます。今後、県内の労働力を維持するためには、進学のために県内に移住してきた人々の県内定着を図ることも必要と思われます。彼らが県内で働くことを選んだ理由は、友人がいることや、今住んでいる地域で働けるから、といった学生生活の延長として働き先を選んでいるということもありますが、「働きたいと思った会社があったから」という会社に魅力を感じて県内就業を選んでいる人もいます。働きたいと思う会社というのはどのような会社でしょうか。働く上で重視するポイントをたずねた結果から推測すると、学卒から県内就業の人々の多くは、自分の能力にあった、やりがいのある仕事ができることに加えて、子育てや介護との両立ができることや、福利厚生が充実していること、残業があまりないことを選んでいきます。やりがいのある仕事ができることとともに、自分のライフスタイルに合わせて働きやすい職場を望んでいます。こうした会社が複数あることが、若者の県内定着の一つの条件であると思われます。

②県内企業の就職マッチングの重要性

若者の県内定着を促すためには、県内企業の求人情報が県内就職を望んでいる人に的確に届くよう、就職に関する情報提供のあり方も重要です。

ハローワークといった公的機関からの就職情報は、多くの人に信頼されていますが、仕事内容や職場の雰囲気までわかったという人はあまり多くないようです。しかし実際、自分がどのような仕事をするのかを把握できなければ、やりがいのある仕事かどうかを判断できません。また職場の雰囲気がわからなければ、働きやすい職場かどうかを見極めることもできません。就職先を決める際には、仕事内容や職場の雰囲気などを把握しておくことが重要です。

本調査結果から、インターンシップや個別企業の説明会、OB・OG訪問による情報を利用した人の多くは、職場の雰囲気までよくわかったと評価していることが示されました。これらの情報は、企業から一方的に与えられるものではなく、企業と求職者による双方向的な交流によって得られるものです。実際、こうした情報を利用している人は現状ではあまり多くないようですが、県内就職の拡大、定着のためには、就職の段階から、求職者に丁寧に情報提供をする環境を整えることが重要です。

求人にあたり、企業一社では広報や運営が難しい場合には、複数の企業が集まって説明会やインターンシップ、OB・OG訪問などができるよう、自治体などが中心になって企画をするという方法もあります。また、現状、学校の先生からの話を参考にしている人が多いことに加え、「学校の求人情報を利用した」という自由回答意見もあることから、学校が就職に関する情報を、企業や自治体と連携をして提供するという方法も考えられます。学校、企業、自治体が連携をして、県内就職を望む人々に、的確に求人情報を届ける工夫が必要と思われれます。

(第一生命経済研究所 ライフデザイン研究部 主席研究員 的場康子)

《調査の背景》

少子高齢化が進む中、わが国経済の持続的発展のためには、労働者が働きやすい環境を整えて、これまで働いていなかった女性や高齢者を含め、労働力を確保することが必要とされています。特に福島県では、東日本大震災や原子力災害の影響もあり、若者の県外転出が続き、産業を支える労働力確保の点で大きな課題となっています。

このような中、福島県では、産業と雇用を復興し、県を取り巻く社会経済情勢の変化に的確に対応するため、「復興に向けた人材育成確保・雇用促進」「仕事と生活の調和の促進」「高度産業人材の育成」「技能・知識・経験の継承、発展」の4つを大きな柱とし、「産業を支える人々が輝く『ふくしま』の実現」に向けて、具体的施策を展開しているところです。

こうしたことを背景に、第一生命では、福島県内で働く人々の就業意識調査を実施し、福島県で働く人々がどのような経緯で就業しているか、県内就業の背景や意識についての分析を通じて、若者の県内定着に向けた課題について考察をおこないました。

《調査の概要》

1. 調査対象 福島県内で働いている男女
2. 調査方法 訪問調査(第一生命保険社員による訪問)
3. 調査時期 2017年12月～2018年2月
4. 調査実施体制 第一生命が調査票の配布・回収・集計を、第一生命経済研究所が分析を担当
5. 回答者の属性(上段:人数(人)、下段:割合(%))

* 構成比は、少数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値は必ずしも 100 にならないことがあります。

①性・年代別

		全体	20代	30代	40歳以上	無回答
全体		2,012 100.0	542 26.9	555 27.6	908 45.1	7 0.3
性別	男性	1,009 100.0	270 26.8	289 28.6	446 44.2	4 0.4
	女性	1,001 100.0	272 27.2	266 26.6	462 46.2	1 0.1

②性・就業形態別

		全体	会社勤務 (正社員)	公務員・教 職員・非営 利団体職員	パート・ アルバイト	派遣社員・ 契約社員	その他	無回答
全体		2,012 100.0	1,187 59.0	417 20.7	174 8.6	118 5.9	96 4.8	20 1.0
性別	男性	1,009 100.0	604 59.8	313 31.0	16 1.6	31 3.1	40 4.0	5 0.5
	女性	1,001 100.0	583 58.2	104 10.4	158 15.8	87 8.7	56 5.6	13 1.3

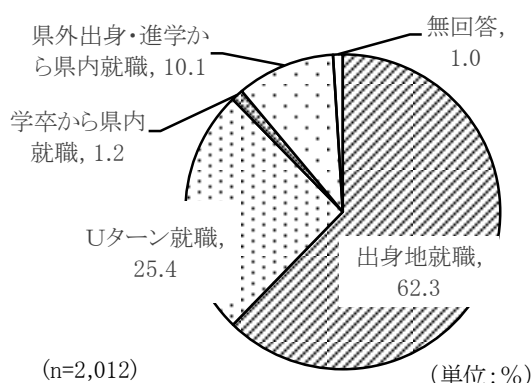
4つの就職パターンと地域への愛着意識

「出身地就職」が最も多く62.3%、次いで「Uターン就職」25.4%、「県外出身・進学から県内就職」10.1%、「学卒から県内就職」1.2%の順。地域への愛着を「感じている」人の割合が最も高いのは「Uターン就職」の人々。

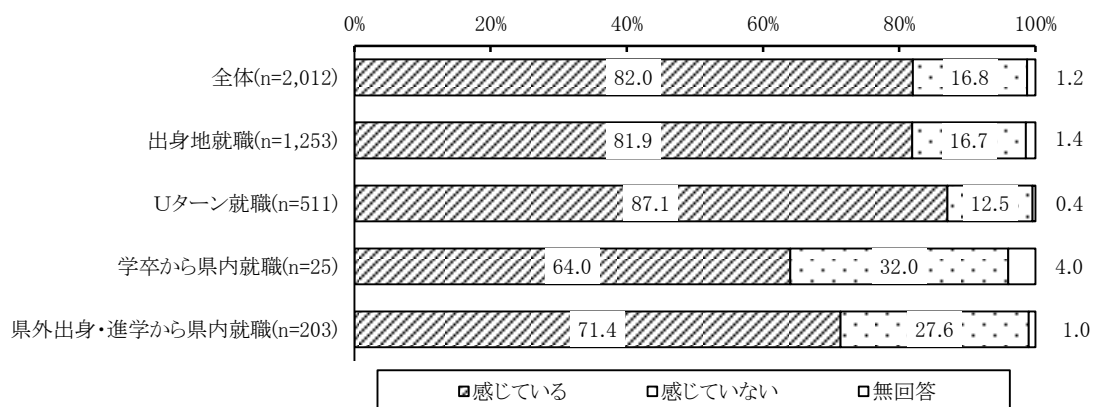
図表1-1 4つの就職パターン

	出身地	卒業した学校	就職地
1. 出身地就職	県内	県内	県内
2. Uターン就職		県外	
3. 学卒から県内就職	県外	県内	
4. 県外出身・進学から県内就職		県外	

図表1-2 就職パターンの分布



図表1-3 就職パターン別にみた住んでいる地域の愛着意識



本調査の対象者はすべて福島県内で働いている人々です。今回、出身地（県内と県外）と卒業した学校の所在地（県内と県外）によって4つの就職パターンに分類しました（図表1-1）。

第一は、出身地が県内、卒業した学校も県内で、そのまま県内で働いている「出身地就職」です。第二は、出身地は県内ですが、県外の学校を卒業し、県内に戻って働いている「Uターン就職」です。第三は、出身地は県外ですが、福島県の学校を卒業し、そのまま県内で働いている「学卒から県内就職」です。第四は、出身地、進学先ともに県外ですが、福島県で働いている「県外出身・進学から県内就職」です。

回答者の就職パターンの分布をみたものが図表1-2です。「出身地就職」が最も多く62.3%を占めています。次いで「Uターン就職」が25.4%、「県外出身・進学から県内就職」が10.1%、「学卒から県内就職」

が1.2%となっています。「出身地就職」が最も多いものの、Uターン就職も4人に1人の割合であり、本調査の対象者の多くは出身地で働いている人々です。

現在住んでいる地域の愛着意識について、就職パターン別にみると、愛着を「感じている」と回答した人の割合は「Uターン就職」の人が最も多く、87.1%を占めています（図表1-3）。次いで「出身地就職」が81.9%となっています。「Uターン就職」と「出身地就職」の人とともに、現在住んでいる地域が「出身地」です。このことが、他の就職パターンの人に比べて、住んでいる地域への愛着を感じている人の割合が高いことに関連しているものと思われます。

働く上で重視していること

最も多い回答は「やりがいを感じられる仕事ができること」

図表2 働く上で重視するポイント(上位7項目)(全体、性別、年代別、就職パターン別) <3つまでの回答>

(単位:%)

		やりがいを感じられる仕事ができること	仕事内容が自分の能力や適性に合っていること	勤務先が自宅から近いこと	雇用が安定していること	適正な賃金をもらえること	人や社会の役に立つ仕事ができること	子育てや介護をしながらでも働き続けられること
全体(n=2,012)		46.3	36.2	28.1	27.3	27.2	23.0	18.0
性別	男性(n=1,009)	51.0	41.3	21.6	28.9	29.3	31.0	5.1
	女性(n=1,001)	41.7	31.2	34.7	25.5	25.1	15.0	31.2
年代別	20代(n=542)	45.6	32.7	21.2	26.9	34.1	23.2	14.9
	30代(n=555)	50.5	35.1	24.1	25.6	27.7	19.6	23.6
	40代以上(n=908)	44.5	39.2	34.5	28.3	22.7	25.0	16.6
パターン別 就職	出身地就職(n=1,253)	42.3	34.3	32.1	27.2	27.6	18.4	19.0
	Uターン就職(n=511)	55.6	40.9	20.9	28.2	26.0	33.9	17.8
	学卒から県内就職(n=25)	52.0	44.0	8.0	20.0	36.0	16.0	32.0
	県外出身・進学から県内就職(n=203)	48.8	36.9	24.6	26.6	27.1	26.1	11.8

注：太字は上位3位までの項目

働く上で重視するポイントをたずねたところ、全体では「やりがいを感じられる仕事ができること」（以下「やりがい」）が46.3%で第1位、「仕事内容が自分の能力や適性に合っていること」（以下「仕事内容」）が36.2%で第2位、そして「勤務先が自宅から近いこと」（以下「勤務先が近い」）が28.1%で第3位となっています（図表2）。

性別にみると、男女ともに「やりがい」と「仕事内容」が上位2位ですが、第3位の項目は異なり、男性は「人や社会の役に立つ仕事ができること」、女性は「勤務先が近い」です。

年代別にみると、各年代ともに「やりがい」と「仕事内容」が上位2位ですが、第3位の項目は異なり、20代と30代は「適正な賃金をもらえること」、40代以上は「勤務先が近い」です。

就職パターン別にみると、いずれも「やりがい」と「仕事内容」が上位2位であり、第3位の項目が異なります。出身地就職の人は「勤務先が近い」、Uターン就職の人は「人や社会の役に立つ仕事ができること」、学卒から県内就職と県外出身・進学から県内就職の人は「適正な賃金をもらえること」が第3位の項目です。

働く上で、多くの人が「やりがい」や「仕事内容」を重視しているようですが、属性によってやや違いもみられました。特に就職パターン別では、出身地就職の人は自宅から近いところで働きたいと思っている人が多く、Uターン就職の人は地元への貢献を意識している人が多いことがうかがえます。他方、学卒から県内就職と県外出身・進学から県内就職の人はいずれも出身地が県外であるが、これらの人々は適正な賃金をもらえることを重視している人が多いことが特徴です。

福島県内で働いている理由

最も多い回答は「家族・親族が住んでいるから」

図表3 福島県内で働いている理由((上位7項目)(全体、性別、年代別、就職パターン別) <3つまでの回答>

(単位:%)

		家族・親族が住んでいるから	地元(福島県)が好きだから	住んでいるところの近くで働けるから	地元(福島県)に貢献したいから	友人知人が多いから	働きたいと思った会社があったから	親が地元での就職を勧めたから
全体(n=2,012)		57.9	34.6	32.7	16.0	14.6	8.9	6.6
性別	男性(n=1,009)	49.9	37.7	28.7	22.8	12.3	10.8	6.6
	女性(n=1,001)	66.1	31.6	36.7	9.2	16.8	7.0	6.5
年代別	20代(n=542)	49.8	33.4	34.7	19.0	18.8	12.9	6.5
	30代(n=555)	59.3	33.0	28.1	13.9	15.7	7.0	5.4
	40代以上(n=908)	62.1	36.5	34.1	15.5	11.2	7.6	7.4
就職パターン別	出身地就職(n=1,253)	61.1	37.8	39.2	12.5	17.8	7.4	6.1
	Uターン就職(n=511)	63.0	39.1	23.3	29.4	10.8	9.2	10.6
	学卒から県内就職(n=25)	28.0	12.0	20.0	4.0	16.0	16.0	0.0
	県外出身・進学から県内就職(n=203)	30.0	6.4	17.2	6.4	2.0	15.8	0.0

注：太字は上位3位までの項目

福島県内で働いている理由をたずねたところ、全体では「家族・親族が住んでいるから」「地元(福島県)が好きだから」「住んでいるところの近くで働けるから」が上位3位でした(図表3)。性別や年代別にみても、これらの項目が上位3位となっています。

就職パターン別にみると、出身地就職の人は、これらの項目が上位3位となっているが、それ以外のパターンではそれぞれの特徴がみられます。Uターン就職の人は、「家族・親族が住んでいるから」「地元(福島県)が好きだから」が上位2位ですが、第3位が「地元(福島県)に貢献したいから」です。全体平均の16.0%と比べて10ポイント以上うまわっています。また、「親が地元での就職を勧めたから」(10.6%)も全体平均の6.6%より高いです。Uターン就職の人は、親の勧めや、地元への貢献意識が高いようです。

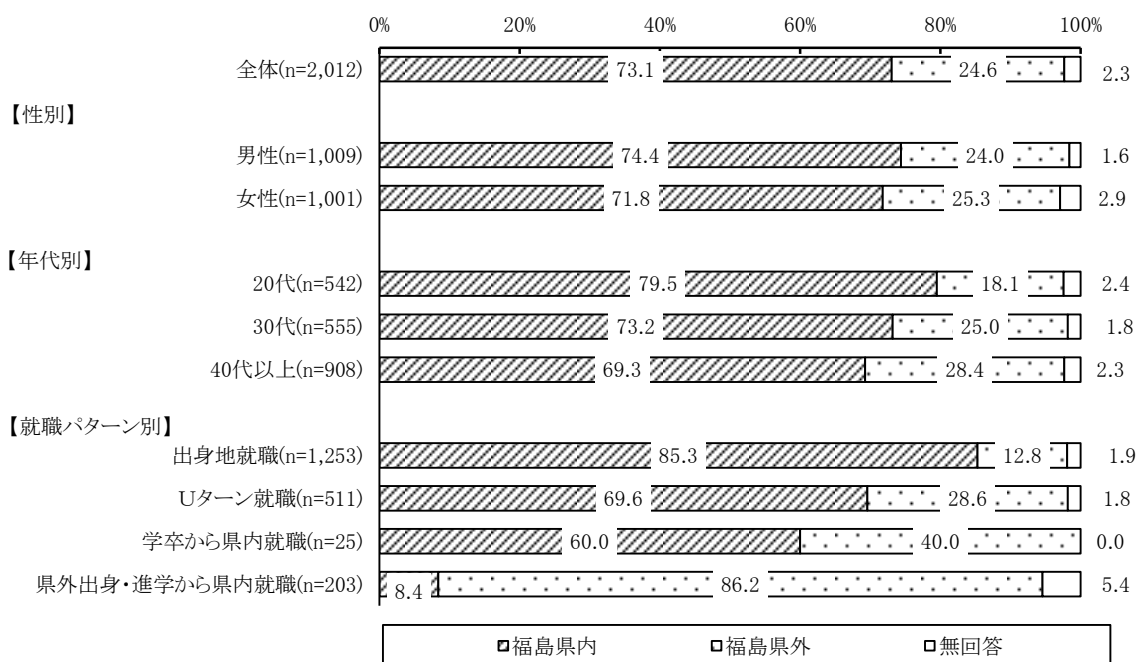
学卒から県内就職は、「家族・親族が住んでいるから」と並んで、「福島県内の大学を卒業したから」(28.0%)が第1位です。また、全体平均よりも「友人知人が多いから」や「働きたいと思った会社があったから」の回答割合が高いです。大学生活で慣れ親しんだ地域で働くことを選んだ人が多いことがうかがえます。

県外出身・進学から県内就職は、「会社に転勤を命じられたから」(33.5%)が最も多いです。また、他のパターンの人に比べて「地元(福島県)が好きだから」や「地元(福島県)に貢献したいから」「友人知人が多いから」が極端に少ないです。福島県に対する愛着や貢献意識というよりも、会社に命じられて福島県で働いている人が多いことが特徴です。

学校を卒業したときに希望していた勤務地

全体では7割以上が「福島県内」を希望

図表4 学校を卒業したときに希望していた勤務地(全体、性別、年代別、就職パターン別)



学校を卒業したときに希望していた勤務地をたずねところ、全体では「福島県内」が73.1%、「福島県外」が24.6%でした(図表4)。学卒時に福島県内で働きたいと思っていた人が7割以上と大多数を占めています。「福島県外」と回答した人に具体的な都道府県をたずねたところ、東京都、宮城県、神奈川県、埼玉県、茨城県などが多いです。

性別ではあまり差はみられませんが、年代別では若い年代ほど「福島県内」で働きたいと思っている人が多いようです。

就職パターン別にみると、出身地就職の人は85.3%が「福島県内」で働くことを希望しており、他の就職パターンに比べて最も高い割合です。次いで「福島県内」で働きたいと思っている人の割合はUターン就職の人が多く69.6%です。出身地は県外であるが福島県内の学校を卒業した人では60.0%が県内就業を希望しています。出身地が県内である人には及びませんが、学卒地が福島県内である人でも県内で働きたいと思う人が6割を占めています。他方、出身地も学卒地も県外の人では、福島県内で働きたいと希望していた人は8.4%という結果でした。

今後の県内就業の意向

全体の9割近くが「このまま福島県内で働きたい」

図表5 今後の県内就業の意向(全体、性別、年代別、就職パターン別)

(単位:%)

		このまま福島県内で働きたい	できるなら福島県を離れて、別の地域で働きたい	できるなら福島県を離れて、自分の出身地に戻りたい	無回答
全体(n=2,012)		89.4	5.2	3.1	2.3
性別	男性(n=1,009)	88.3	5.4	4.0	2.3
	女性(n=1,001)	90.7	5.0	2.2	2.1
年代別	20代(n=542)	84.8	7.6	4.6	3.0
	30代(n=555)	90.1	6.3	2.3	1.3
	40代以上(n=908)	92.1	3.1	2.6	2.2
就職パターン別	出身地就職(n=1,253)	93.4	4.5	0.4	1.7
	Uターン就職(n=511)	92.4	5.1	0.2	2.3
	学卒から県内就職(n=25)	68.0	4.0	24.0	4.0
	県外出身・進学から県内就職(n=203)	60.2	10.3	24.6	4.9

今後、働くにあたり福島県から移動することを考えているかどうかをたずねたところ、全体では89.4%が「このまま福島県内で働きたい」（以下「県内で働きたい」）と回答しています（図表5）。「できるなら福島県を離れて、別の地域で働きたい」（以下「別の地域で働きたい」）は5.2%、「できるなら福島県を離れて、自分の出身地に戻りたい」（以下「出身地で働きたい」）は3.1%となっています。

「別の地域で働きたい」と回答した人に、具体的な都道府県をたずねたところ、東京都、宮城県、神奈川県、新潟県、埼玉県、千葉県などが多いです。「出身地で働きたい」と回答した人は、宮城県、東京都、埼玉県などが多いという結果でした。

性別では、あまり差はみられませんでした。

年代別にみると、20代は「県内で働きたい」が相対的に少なく、別の地域や出身地で働きたいと答えた人が多いです。他方、40代以上は「県内で働きたい」が相対的に多く、別の地域や出身地で働きたいと答えた人が少ない傾向がみられます。

就職パターン別にみると、出身地就職やUターン就職の人は「県内で働きたい」が9割以上と高いです。これに対して、学卒から県内就職と県外出身・進学から県内就職の人は「県内で働きたい」は6割台となっており、「出身地で働きたい」が約4人に1人の割合となっています。

就職先を決める際に利用した情報

20代は「企業のホームページやSNS」、30代は「ハローワーク」、
40代以上は「家族・親族の話」が第1位

図表6 就職先を決める際に利用した情報(上位8項目)(全体、性別、年代別、就職パターン別)〈複数回答〉

(単位:%)

	家族・親族に話をきいた	公的な就職支援機関(ハローワークなど)を利用した	企業のホームページや企業のSNSを閲覧した	学校の先生に話をきいた	友人に話をきいた	採用情報のウェブサイトを開覧した	OB・OGなど、志望企業で働いている人に話をきいた	個別企業の説明会に参加した
全体(n=2,012)	27.4	25.5	25.2	21.8	21.7	19.1	16.1	11.9
性別								
男性(n=1,009)	27.7	19.1	27.1	22.9	19.9	18.4	14.6	13.5
女性(n=1,001)	27.1	32.0	23.5	20.7	23.5	19.9	17.5	10.3
年代別								
20代(n=542)	29.9	19.9	41.1	31.7	22.1	34.7	19.0	18.5
30代(n=555)	27.7	32.3	30.8	18.9	21.6	24.1	15.1	11.9
40代以上(n=908)	25.7	24.8	12.3	17.6	21.5	6.9	14.8	8.0
最終学歴別								
高校(n=952)	25.9	27.8	19.2	24.2	23.3	12.0	15.3	5.1
専門学校・各種学校(n=292)	22.3	31.5	30.5	23.3	15.1	19.2	14.4	12.3
短大・高専(n=171)	32.2	33.9	25.1	18.7	21.6	19.9	16.4	8.8
大学・大学院(n=547)	31.6	16.3	34.6	19.2	22.1	32.5	18.8	25.4
就職パターン別								
出身地就職(n=1,253)	26.5	27.2	22.1	24.1	23.5	15.0	15.6	7.5
Uターン就職(n=511)	32.5	23.7	31.5	15.7	19.2	26.0	14.9	18.8
学卒から県内就職(n=25)	12.0	12.0	32.0	20.0	16.0	36.0	24.0	20.0
県外出身・進学から県内就職(n=203)	20.7	22.2	28.6	22.2	18.2	25.6	21.2	21.2

就職を決める際に利用した情報をたずねた結果が図表6です。全体計で上位8位までの項目を示しました。全体では、「家族・親族に話をきいた」「公的な就職支援機関(ハローワークなど)を利用した」(以下「ハローワークなど」)「企業のホームページや企業のSNSを閲覧した」(以下「企業のホームページなど」)が上位3位となっています。

性別にみると、男女ともに「家族・親族に話をきいた」「企業のホームページなど」の割合は高いですが、男性は「学校の先生に話をきいた」、女性は「ハローワークなど」や「友人に話をきいた」への回答割合も高いです。

年代別にみると、20代は「企業のホームページなど」「採用情報のウェブサイトを開覧した」(以下「ウェブサイト」)の割合が他の年代に比べて高く、インターネットを活用して就職に関する情報を収集している人が多いようです。30代は「ハローワークなど」や「企業のホームページなど」が3割を超えています。「ウェブサイト」も、20代ほどではありませんが、40代以上よりは多いことから、30代はインターネットに

よる情報収集をし始めた年代といえるでしょう。40代以上は「家族・親族に話をきいた」「ハローワークなど」「友人に話をきいた」が多く、インターネットの活用というよりは、人からの情報を利用した人が多いようです。

就職パターン別にみると、出身地就職の人は、「ハローワークなど」「家族・親族に話をきいた」「学校の先生に話をきいた」の割合が高く、人から情報収集をした人が多いです。Uターン就職の人は「家族・親族に話をきいた」割合も高いですが、「企業のホームページなど」や「ウェブサイト」といったインターネットによる情報も活用している人の割合も高いです。学卒から県内就職の人は、「ウェブサイト」「企業のホームページなど」といったインターネットによる情報とともに、「学校の先輩に話をきいた」(32.0%)、「大学外の(集団)企業説明会に参加した」(28.0%)人の割合も高いことが特徴的です。県外出身・進学から県内就職の人は、「企業のホームページなど」「ウェブサイト」といったインターネットによる情報とともに、「ハローワークなど」や「学校の先生に話をきいた」への回答も約2割となっています。

「その他」の項目には、「新聞の求人折込広告」「ダイレクトメール」「店の求人広告」「派遣会社」「テレビニュースの募集情報を見た」「電話帳NTT」「学校に届いた求人情報」「知人からの紹介」「町広報紙」などの記述がありました。

就職を決める際に利用した情報の中で信頼できる情報

20代は「企業のホームページやSNS」、30代、40代以上は「ハローワーク」が第1位

図表7 信頼できると思う情報(上位7項目)(全体、性別、年代別、就職パターン別) <2つまでの複数回答>

(単位：%)

	公的な就職支援機関(ハローワークなど)を利用した	家族・親族に話を聞いた	企業のホームページや企業のSNSを閲覧した	学校の先生に話を聞いた	OB・OGなど、志望企業で働いている人に話を聞いた	友人に話を聞いた	採用情報のウェブサイトを閲覧した	個別企業の説明会に参加した
全体(n=2,012)	15.3	9.7	9.2	8.9	8.0	7.4	5.3	3.9
性別								
男性(n=1,009)	11.4	10.7	10.8	11.3	8.9	6.4	6.3	5.3
女性(n=1,001)	19.3	8.6	7.6	6.6	7.1	8.4	4.3	2.6
年代別								
20代(n=542)	11.4	10.0	13.8	12.4	8.3	6.3	8.5	5.4
30代(n=555)	19.6	10.3	10.1	7.7	7.9	6.5	8.1	4.1
40代以上(n=908)	15.0	9.1	5.8	7.7	7.8	8.6	1.8	3.0
就職パターン別								
出身地就職(n=1,253)	16.0	9.8	8.6	9.8	7.7	8.3	3.3	2.2
Uターン就職(n=511)	14.9	10.8	11.5	5.7	7.4	5.1	10.0	6.8
学卒から県内就職(n=25)	8.0	4.0	12.0	12.0	20.0	8.0	8.0	0.0
県外出身・進学から県内就職(n=203)	13.3	6.4	6.4	10.8	10.3	7.9	6.4	8.4

図表6に示した就職を決める際に利用した情報の中で、信頼できると思ったものをたずねた結果が図表7です。「無回答」を除き、全体計で上位7位までの項目を示しました。

全体では、「公的な就職支援機関(ハローワークなど)」(以下「ハローワークなど」)が15.3%、「家族・親族」の話が9.7%、「企業のホームページや企業のSNS」(以下「企業のホームページなど」)が9.2%で上位となっています。

性別にみると、男女とも「ハローワークなど」が最も多いですが、2位以下の項目は性別で異なります。男性は「学校の先生」や「企業のホームページなど」の割合が高く、女性は「家族・親族」や「友人」の割合が高いです。男性は学校の先生や企業からの情報など、女性は身近な人々からの話を信頼できている人が多いことが特徴です。

年代別にみると、20代では「企業のホームページなど」や「学校の先生」からの情報も、「ハローワークなど」と同じくらいの割合ですが、30代、40代以上では「ハローワークなど」の割合が特に高く、「家族・親族」の話がこれに続いています。30代以上の人は、ハローワークなどの公的機関に頼る人が多い傾向にあるようですが、20代では企業のホームページなど、様々な情報も信頼できている人が多いです。

就職パターン別にみると、学卒から県内就職以外の、出身地就職、Uターン就職、県外出身・進学から県内就職では「ハローワークなど」が1位となっています。学卒から県内就職では「OB・OGなど、志望企業で働いている人に話を聞いた」が1位です。県外の出身で県内の大学を卒業して、そのまま県内で働いている人にとっては、大学のネットワークが就職に当たり重要な情報源になっているようです。

就職を決める際に利用した情報の中で仕事内容がわかる情報

20代、30代は「企業のホームページやSNS」、40代以上は「OB・OGの話」が第1位

図表8 仕事内容がわかる情報(上位7項目)(全体、性別、年代別、就職パターン別) <2つまでの複数回答>

(単位: %)

	企業のホームページや企業のSNSを閲覧した	公的な就職支援機関(ハローワークなど)を利用した	OB・OGなど、志望企業で働いている人に話を聞いた	個別企業の説明会に参加した	採用情報のウェブサイト閲覧した	友人に話を聞いた	家族・親族に話を聞いた	アルバイトをした
全体(n=2,012)	10.9	8.7	8.5	7.4	5.6	5.1	5.0	4.4
性別								
男性(n=1,009)	11.3	6.6	8.2	9.2	5.7	4.5	5.9	4.0
女性(n=1,001)	10.6	10.8	8.9	5.5	5.4	5.7	4.1	4.8
年代別								
20代(n=542)	15.5	6.1	9.2	11.6	9.4	4.1	3.5	3.5
30代(n=555)	13.3	11.7	7.4	7.2	6.5	5.9	6.1	6.1
40代以上(n=908)	6.6	8.4	8.8	5.0	2.8	5.2	5.3	3.9
就職パターン別								
出身地就職(n=1,253)	10.5	9.8	8.4	4.1	4.4	5.7	5.7	4.9
Uターン就職(n=511)	11.9	5.9	7.4	12.9	7.0	3.5	4.3	3.7
学卒から県内就職(n=25)	16.0	12.0	12.0	12.0	8.0	0.0	0.0	4.0
県外出身・進学から県内就職(n=203)	10.8	8.9	12.8	13.8	8.9	4.9	3.0	2.5

図表6に示した就職を決める際に利用した情報の中で、仕事内容がわかる情報をたずねた結果が図表8です。「無回答」を除き、全体計で上位7位までの項目を示しました。

全体では、「企業のホームページや企業のSNS」(以下「企業のホームページなど」)が10.9%、「公的な就職支援機関(ハローワークなど)」(以下「ハローワークなど」)が8.7%、「OB・OGなど、志望企業で働いている人」(以下「OB・OGなど」)の話が8.5%で上位です。

性別にみると、男女とも「企業のホームページなど」や「OB・OGなど」への回答が高いです。また、男性の場合、「個別企業の説明会」も上位であり、仕事内容については、企業からの直接的な情報から得ている人が多いようです。

年代別にみると、いずれの年代も「企業のホームページなど」への回答割合が高いことは共通です。しかし、20代では「個別企業の説明会」や「採用情報のウェブサイト」からの情報も仕事内容がわかるものと認識している人が多いのに対して、30代、40代以上では「ハローワークなど」や「OB・OGなど」からの情報が仕事内容がわかりやすいとしています。

就職パターン別にみると、いずれのパターンも「企業のホームページなど」への回答割合が高いことは共通です。ただ、Uターン就職や県外出身・進学から県内就職といった、県外から就職した人は「個別企業の説明会」への回答割合が高いことが特徴です。

就職の際に利用した情報の中で職場の雰囲気がわかる情報

全年代にわたり「OB・OGの話」が第1位

図表9 職場の雰囲気がわかる情報(上位7項目)(全体、性別、年代別、就職パターン別) <2つまでの複数回答>

(単位：%)

	OB・OGなど、志望企業で働いている人に話を聞いた	友人に話を聞いた	個別企業の説明会に参加した	企業のホームページや企業のSNSを閲覧した	インターンシップに参加した	アルバイトをした	家族・親族に話を聞いた	学校の先輩に話を聞いた
全体(n=2,012)	10.3	6.5	6.4	6.2	5.0	4.8	4.4	3.6
性別								
男性(n=1,009)	9.4	5.8	7.4	6.6	6.3	4.3	4.8	5.1
女性(n=1,001)	11.2	7.1	5.3	5.7	3.6	5.4	4.0	2.2
年代別								
20代(n=542)	12.9	5.4	9.8	8.1	12.2	3.9	3.9	4.6
30代(n=555)	8.8	7.0	6.7	8.8	3.4	7.2	5.6	3.1
40代以上(n=908)	9.7	6.8	4.2	3.2	1.7	4.0	4.0	3.4
就職パターン別								
出身地就職(n=1,253)	9.7	7.3	4.2	5.7	4.0	5.3	4.7	3.4
Uターン就職(n=511)	11.0	5.3	9.6	7.8	7.8	4.3	4.5	3.3
学卒から県内就職(n=25)	12.0	0.0	8.0	12.0	0.0	8.0	0.0	8.0
県外出身・進学から県内就職(n=203)	12.8	4.9	11.8	3.9	4.4	2.5	3.0	5.4

図表6に示した就職を決める際に利用した情報の中で、職場の雰囲気がわかる情報をたずねた結果が図表9です。「無回答」を除き、全体計で上位7位までの項目を示しました。

全体では、「OB・OGなど、志望企業で働いている人」(以下「OB・OGなど」)の話が10.3%、「友人」の話が6.5%、「個別企業の説明会」が6.4%で上位となっています。

性別にみると、男女ともに1位が「OB・OGなど」、3位が「企業のホームページや企業のSNS」ですが、2位が男性は「個別企業の説明会」、女性は「友人」の話となっています。職場の雰囲気については、男性の場合、企業からの直接的な情報から把握する人が多いですが、女性の場合はOB・OGや友人からの話も参考にしている人が多いようです。

年代別にみると、いずれの年代も「OB・OGなど」が1位ですが、20代は「インターンシップ」への参加、30代は「アルバイト」、40代以上は「友人」の話が2位となっています。特に20代、30代では、実際に職場体験をすることが、職場の雰囲気がわかる情報として有力であると思っている人が多いようです。

就職パターン別にみると、いずれも「OB・OGなど」が1位ですが、2位以下は異なります。Uターン就職や県外出身・進学から県内就職といった、県外から就職した人は「個別企業の説明会」への回答割合が高いことが特徴です。

利用した情報についての評価

就職の際に「OB・OGなど、志望企業で働いている人に話を聞いた」人の中で、「信頼できる」と回答した人は半数以上(55.9%)、「仕事の内容がよくわかった」と回答した人は6割以上(60.1%)、「職場の雰囲気がよくわかった」と回答した人の割合は8割近く(78.1%)にのぼる

図表10 利用した情報についての評価

(単位：%)

		信頼できる	仕事の内容がよくわかった	職場の雰囲気がよくわかった
インターネット	企業のホームページや企業のSNSを閲覧した	41.3	50.5	32.6
	採用情報のウェブサイト(リクナビ、マイナビ、日経就職ナビ等)を閲覧した	32.7	35.5	16.1
	就職情報を交換するクチコミ掲示板を活用した	32.1	20.0	25.5
	SNS(Facebook、Twitter、LINE等)を活用した	19.4	19.4	34.5
経験	インターンシップに参加した	35.4	60.2	78.6
	アルバイトをした	20.3	46.3	54.8
	ボランティア活動をした	20.7	33.9	45.3
大学・企業	大学主催の企業説明会に参加した	27.9	29.9	20.6
	大学の就職部・キャリアセンターを利用した	46.5	16.3	3.4
	大学外の(集団)企業説明会に参加した	19.7	38.4	17.2
	個別企業の説明会に参加した	36.9	68.4	65.1
周りの人の意見	学校の先生に話をきいた	52.5	26.5	20.3
	学校の先輩に話をきいた	36.3	32.6	42.9
	OB・OGなど、志望企業で働いている人に話をきいた	55.9	60.1	78.1
	友人に話をきいた	44.1	32.8	46.6
	家族・親族に話をきいた	45.0	25.8	26.3
求人サービス	公的な就職支援機関(ハローワークなど)を利用した	78.1	50.1	23.4
	民間の就職支援サービス(新卒者向け人材紹介サービス)を利用した	31.3	26.3	13.6
出版物	民間情報会社が発行する就職情報誌を読んだ	20.4	19.1	21.2
	就職活動のノウハウ本を読んだ	11.6	14.6	4.5
	一般の新聞や雑誌、書籍(会社四季報など)を読んだ	22.6	16.3	13.4

注：数値は、各種情報を利用した人の中で、「信頼できる」「仕事の内容がよくわかった」「職場の雰囲気がよくわかった」とそれぞれ回答した人の割合

図表10は、各種情報を利用した人の中で、「信頼できる」「仕事の内容がよくわかった」「職場の雰囲気がよくわかった」とそれぞれ回答した人の割合であり、各種情報についての評価をみたものです。

例えば、図表6で、就職を決める際に利用した情報として最も多くの人が「家族・親族に話をきいた」と回答していましたが、その回答者の中で、「家族・親族」の話を「信頼できる」と回答した人の割合は45.0%でした。同様に、「家族・親族」の話を利用した人の中で「仕事の内容がよくわかった」と回答した人の割

合は 25.8%、「職場の雰囲気がよくわかった」と回答した人の割合は 26.3%です。家族・親族の話を参考とした人の中で、その情報を信頼できると回答した人は半数近くいるものの、実際に仕事の内容や職場の雰囲気がよくわかったと評価した人は 3 割にも満たないということです。

図表 7 で、信頼できると思う情報として「公的な就職支援機関（ハローワークなど）を利用した」が第 1 位でしたが、実際、その情報を利用した人の中で、「信頼できる」と回答した人は 78.1%と 8 割近くにのぼっています。しかし、「仕事の内容がよくわかった」と回答した人の割合は 50.1%、「職場の雰囲気がよくわかった」と回答した人の割合は 23.4%です。ハローワークなどの公的機関の情報については、信頼できると思っている人は多いですが、職場の雰囲気までわかったと評価している人はあまり多くないようです。

図表 8 で、仕事内容がよくわかる情報として、最も多くの人々が回答した情報は「企業のホームページや企業の SNS を閲覧した」でした。実際、その情報を利用した人の中で、「仕事の内容がよくわかった」と回答した人の割合は 50.5%であり、「信頼できる」と回答した人は 41.3%、「職場の雰囲気がよくわかった」と回答した人の割合は 32.6%です。就職を決める際に、企業のホームページを利用した人の約半数は仕事内容がよくわかったと回答していますが、職場の雰囲気がよくわかった人は 3 割程度となっています。

図表 9 で、職場の雰囲気がわかる情報として、最も多くの人々が回答した情報は「OB・OG など、志望企業で働いている人に話を聞いた」でした。実際、その情報を利用した人の中で、「職場の雰囲気がよくわかった」と回答した人の割合は 78.1%です。また「仕事の内容がよくわかった」と回答した人は 60.1%ですが、「信頼できる」と回答した人は 55.9%でした。

ハローワークなどの求人サービスは、多くの人に信頼されている情報ですが、実際の仕事内容や職場の雰囲気までわかったという人はあまり多くないようです。これに対して、インターンシップなどの経験や、個別企業の説明会、OB・OG 訪問による情報を利用した人の多くは、職場の雰囲気までよくわかったと評価しています。

＜本調査の内容に関するご照会・取材のお申し込みは、下記までお願いいたします

(株) 第一生命経済研究所 調査研究本部 ライフデザイン研究部 広報担当 (津田・関)
TEL 03-5221-4772 FAX 03-5219-8400
【URL】 <http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>